

伊江小学校

令和6年度学力向上実践報告書



令和6年度学力向上推進実践報告

伊江村立伊江小学校

1. 目標

児童一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む。

2. 具体的な取り組み事項

取り組みの重点目標

◎授業改善 ◎主体的・対話的で深い学び ◎身に着けたい力の明確化、指導内容の吟味、指導の工夫

(1) 「確かな学力の向上」の育成を図る取り組み

本校の実態として、基本的な読み・書き・計算の力は向上しつつあるものの、その学年で習得すべき基礎・基本が定着していない児童がいることがあげられる。そこで「学年のたすき」を意識し、確かな学力の定着を図るために以下のような実践を行った。

①伊江島スタンダードを基にした授業内容の統一

・児童の「問い」が生まれる授業に繋がる実践を行うために、授業の流れを揃え、どの学年、どの教科においても児童が安心して授業に臨めるようしている。また、学期に1度管理職による授業観察を行い、指導助言を行い、授業改善・指導力向上に役立てている。

②校内研「主体的・対話的で深い学びを追求する児童の育成」を目指した授業改善

今年度は、これまで本校が取り組んできた、国語科を中心に授業改善を行った。授業づくりの際には、本県の「授業における基本事項」を常に意識しながら取り組んだ。国語を中心に講師を招聘し、授業作り、授業研究を行い授業改善を行った。

③全国学力テスト・学びの確かめ・ベネッセ・県到達度テストの分析・活用

各種テストの結果を踏まえ、先生方が分析し児童の課題となる点をどのようにして克服できるのかを話し合い、ボトムアップ型の授業改善や補習、宿題の出し方等の工夫改善を行った。

④個々の児童理解を図り、柔軟な個別支援

今年度は、個別支援の充実を図るために、児童理解、児童の困り感の把握などの研修を行い、児童個々の自己肯定感の高揚や成就感の育成から学習意欲の向上に繋がれるようにした。

⑤朝ドリルと放課後の補習

毎週1回（月曜日）の朝ドリル、放課後の補習時間には、学年の実態にあわせたドリル学習に取り組んでいる。また、1月からは週4回（火～金）のパワーアップ期間を設け、「学びのたしかめ」「到達度調査」を分析した上で、全職員体制で学習のまとめに取組み、基礎的・基本的事項の定着を目指した。

⑥国語辞典の活用

本校の児童は、語彙力・コミュニケーション力に課題がある。そこで国語辞典を教室に常備し、言葉に対する意識を高めてきた。また、普段の授業での活用だけでなく年3回辞書引き会を実施することで、子ども達の辞書引きに対する意欲が向上した。さらに、教科に関わらず、難しい言葉の意味や分からない漢字などを自ら調べようとする意欲がでてきた。

⑦検定試験の活用

漢字検定試験を活用し、既習漢字の定着を図るため3学期に全校児童で試験を行い、学習意欲に繋がれるようにした。

⑧家庭学習の工夫

新年度始めに、全学級家庭学習のオリエンテーションを開き、自主学習の取り組み方を共通確認する場を設け、進んで探求する学習の意義を周知した。また、友達の家庭学習ノートを見合うがんばりノート展覧会を開催し、お手本となる児童のノート掲示をし、家庭学習の意欲向上を図った。

また、「けテぶれ」学習を推進し自学自習の習慣化を図り学力の定着を目指した。

クロムブックの積極的な活用を推進し、イーライブラリーを家庭学習に活用した。

そして、PTA と協力して家庭学習や勉強法についての講師を招聘し、児童、保護者に講演会を行ってもらい、学校・家庭が協力して取り組めるようにした結果、児童の家庭学習定着の増加がみられた。

(2) 豊かな心の育成を図る取り組み

本校では、豊かな心の育成を図る取り組みを充実させるために、地域や様々な方々に関わっていただきながら、いろいろな体験活動に取り組んできた。

①人間関係作りの力を育む異学年交流

縦割り班をかつようして、サツマイモの植え付け・収穫、1年生を迎える会での縦割り班競争、運動会での縦割り班リレー、児童会主催の全校児童・全職員参加の行事の開催した。

②平和学習の取り組み

平和学習の取組において、学年の発達段階に応じたカリキュラムを組み、地域の方々から伊江島での戦争の様子を教わり、平和を願う気持ちを育んだ。

③ポジティブフォーカス月間の取り組み

毎学期1回ずつ、友だちのいい所を伝え合う月間になっています。子どもたちからだけではなく、全職員から子どもたちのいいところがあれば、付箋紙に書いて各自のフォーカスシートに張っていました。

④人権教育

地域の方々や行政と協力して、福祉体験活動や全校道德の実施、他学校との積極的な交流図る中で人権意識の高揚を図った。

(3) 健やかな体の育成を図る取り組み

① 弁当の日の取り組み

保護者の協力のもと、5・6年生が自分の弁当を作った。「15の島建ち」に向け、自分でできる事は自分でやろうとする態度が育ってきた。

② 歯磨き運動の推進

本校の課題でもある、むし歯予防と治療促進のため、歯科医師による歯磨き指導、週1回のフッ化物洗口、給食後の歯磨き時間の設定をしている。

授業参観と親子ブラッシング指導をセットして、歯磨きの大切さを親子で学び家庭と連携して、歯垢・歯石や虫歯を減らすための取り組みを行った。

(4) 自分の将来や生き方を考える指導の充実

<キャリア教育>

「かかわる力」「ふりかえる力」「やりぬく力」の視点を日常の授業で実施し、キャリア発達を促す自学自習力を育成し、児童が「夢になりたい自分」の実現を目指す。

3年生から保護者の職場を見学することにより、早い段階から身近な職業に興味を持ち、将来の考える機会として捉え、計画的・継続的に行う。職場に電話で連絡をする方法を学習し、保護者への職場インタビューを行った。

5年生は、八重山での離島体験を通して学んだことを伊江島の未来にどのように生かせるかを自分たちで考え、島内のゴミ拾いを行い、成果を伊江村議会で発表を行った。

6年生は、1泊2日で本島へ、ジョブシャドウを行ったり、ライフプラン授業を通して、働くことの意義や自分自身の将来の夢について考えることができた。また、租税教室では、税金の使い道について学習した。

(5) 基本的な生活習慣の形成を図る取り組み

あいさつ運動、きまりを守る指導、命を大切にする指導は、教育活動全体を通して行っている。

(6) 地域の自然・歴史・文化の重視

保護者や地域の人材を活用した体験活動や地域の伝統文化の継承を通して、自己有用感や郷土への誇り、感謝の心を育んだ。5年生は、伝統芸能を通して学んだことを伝え合うため、老人ホームを慰問し、伝統芸能の披露を行った

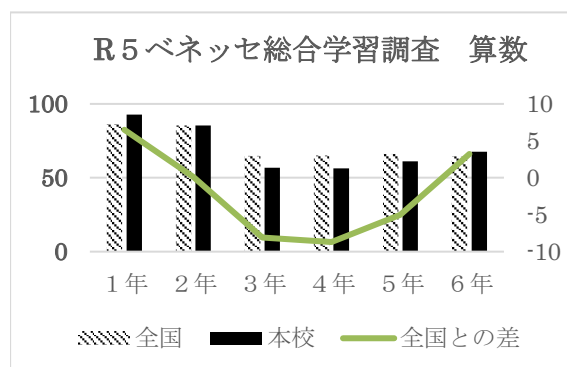
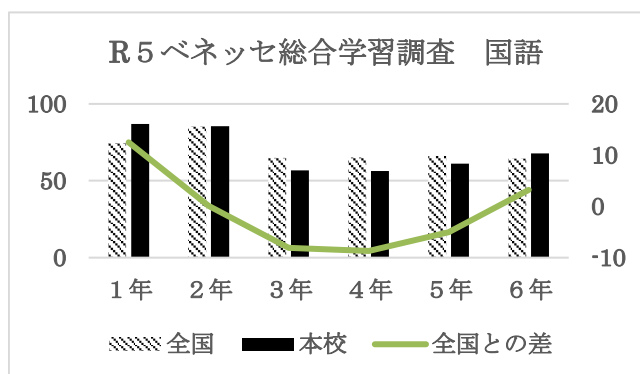
3. 学力調査からの考察

各種テスト（全国学力・学習状況調査、学びの確かめ、ベネッセ総合学力調査、県到達度テスト）

各質問紙（全国学力・学習調査、小学校児童質問紙調査、ベネッセ学力総合調査）

(1) ベネッセ総合学習調査

国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年	算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全国	74.5	85.3	64.8	65.1	66.2	64.5	全国	86.3	85.3	64.8	65.1	66.2	64.5
本校	87.0	85.4	56.7	56.4	61.2	67.7	本校	92.8	85.4	56.7	56.4	61.2	67.7
全国との差	12.5	0.1	-8.1	-8.7	-5	3.2	全国との差	6.5	0.1	-8.1	-8.7	-5	3.2



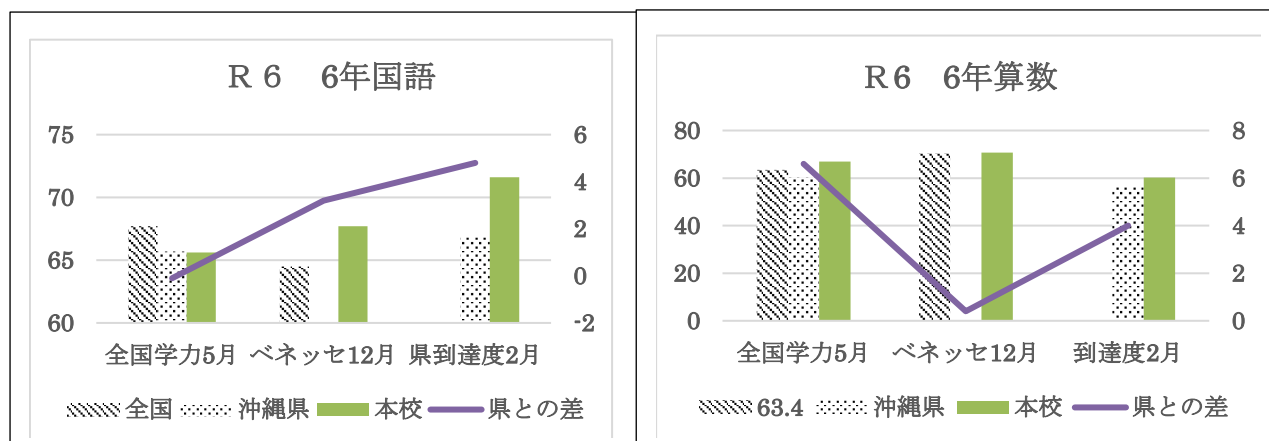
考察

- ・全学年共通で国語「聞くこと・話すこと」「書くこと」、算数「数と計算」は解けていて全国との差がないか、平均を上回っている。
- ・国語「話すこと・聴くこと」「書くこと」、算数「データの活用」「図形」において、ほとんどの学年が前年度より全国との差が縮まっている。課題改善のための手立てが成果として表れてきた。
- ・全学年共通して、国語では「読むこと」、算数「変化と関係」に苦手傾向が見られる。

対策

- ・国語「読むこと」目的に応じて、文章の内容を的確に捉えることができるの文章読解と算数「変化の関係」について、授業改善を行う上で読解力を養うための工夫改善を図る必要がある

(2) 6年生各種テスト集計からの考察



国語	全国学力	ベネッセ	県到達度
全国	67.7	64.5	
沖縄県	65.7		66.8
本校	65.6	67.7	71.6
県との差	-0.1	3.2	4.8

算 数	全国学力	ベネッセ	県到達度
全国	63.4	70.3	
沖縄県	60.4		56.2
本校	67	70.7	60.2
県との差	6.6	0.4	4

(4) 各質問紙より

成果

- ・「学校に行くのは楽しいですか」「先生はあなたの良いところを認めてくれますか」では、どの質問紙においても全国平均・県平均を上回っている。継続して行っている、ポジティブフォーカス月間などの取り組みや、SST 教室のスタートに伴いこれまでもより、児童の困り感等についての教師が細かく観察するようになったことと、支持的風土のある学級経営を学校全体で取り組んだと考えられる。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。」児童の自習性や自治活動への意識向上に学校、学級で取り組んだ成果だと考えられる。
- ・「将来の夢や目標をもっている。」「授業では、課題の解決に向けて、粘り強く最後まで取り組んでいる。」「その日のめあてを決めて、授業や家で学習に取り組んでいる」は、全学年が全国平均を上回っている。また、前年度と比較しても平均が上回っている。これは、キャリア教育を中心に何のために学習をするのかに取り組んだ成果だと考えられる。

課題

- ・前年度同様「本や新聞を読んでいる」が、ほとんどの学年が全国平均より下回っている。

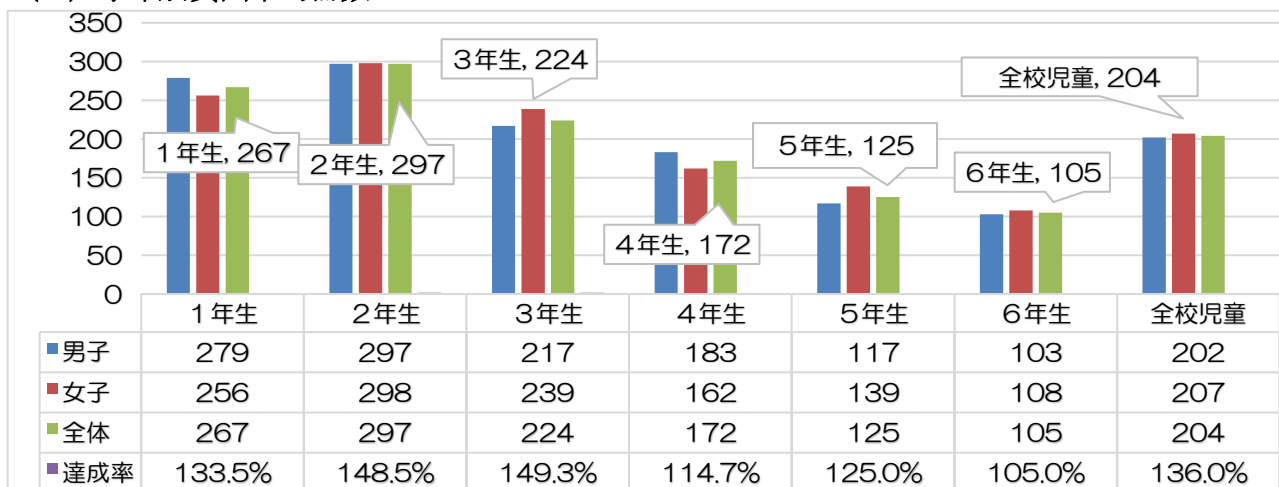
改善策

- ・算数において、情報量が多いと解への見通しが持てない事などから、情報の整理や図表を使うこと、解の検討をするなど日々の授業で取り入れ、学校全体で指導法を統一していく。
- ・「読解力」「読むこと」などの平均正答率が、課題としてある。学年に応じた本や時事についての記事などを主体的に読めるような手立てを学校全体で共通理解を図り行っている。
- ・R7年度 授業での音読、感想や振り返りなどを書く。家庭学習に日記、音読を取り入れる。

【図書館運営】

＝令和6年4月10日～令和7年2月20日までの統計＝

(1) 学年別貸出平均冊数



(3) 年間目標冊数達成状況

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
在籍人数	20名	19名	18名	13名	22名	12名	104名
目標冊数	200冊		150冊		100冊		
達成人数	20名	19名	18名	13名	22名	12名	104名
達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

(3) 今年度の読書活動

＝図書委員会の読み聞かせ＝

朝の活動の時間に練習をか重ね、4年生～6年生で結成される図書委員会が低学年に読み聞かせを実施しました。

＝教職員による読み聞かせ＝

普段関わりの少ない職員が各教室で読み聞かせを行うことによって、読書への意欲関心が高まり、図書館へ足を運ぶ児童が増えました。

＝保護者による読み聞かせ＝

朝の読書活動を利用し、読み聞かせを実施しています。本を通して交流の場を設けています。幼稚園も参加しています。

＝読書クイズ＝

読書月間のイベントとして実施しました。学年(低・中・高)別に毎日問題を更新。ヒント本から答えを探す姿がみられました。

＝読書実演会＝

一般財団法人 絵本未来創造機構・認定講師「EQ 絵本講師」の當銘多美恵さんと山川千慧さんを招聘しました。

＝辞典引き会＝

練習日を設けて国語辞典引き会を行いました。辞典を引く習慣を身につけ、集中力や探求心を養います。



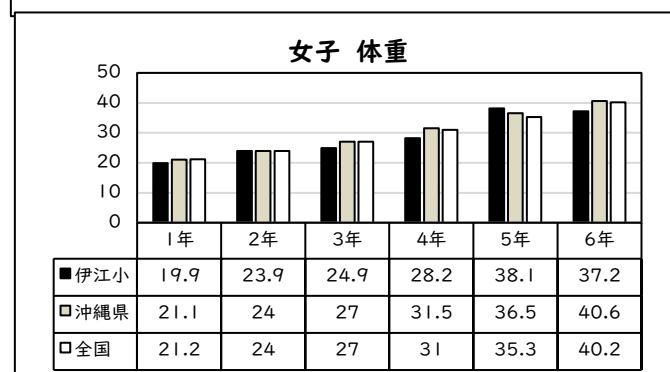
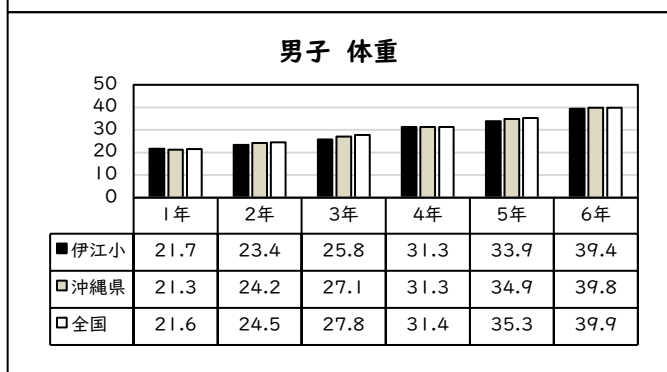
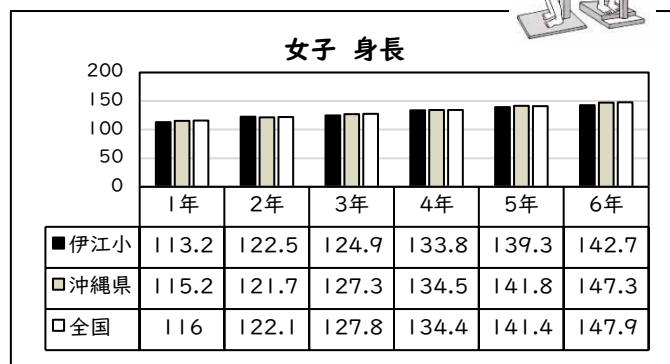
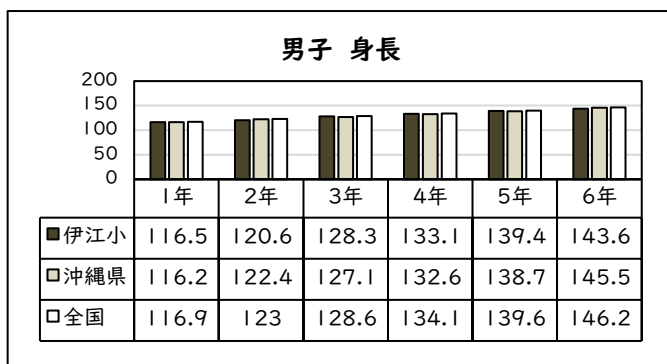
比嘉咲夏さん作
指定図書『うみのおと』

令和6年度 保健概要

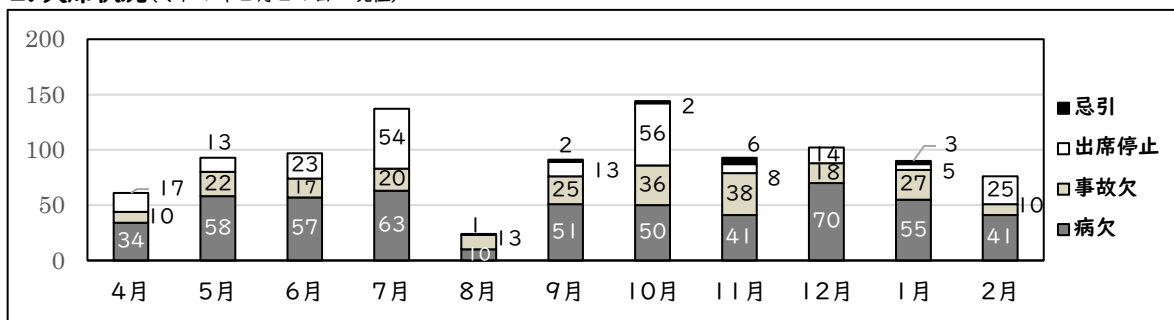


1. 身体測定結果 (令和6年4月実施)

※県、全国平均は令和5年度 学校保健統計調査より



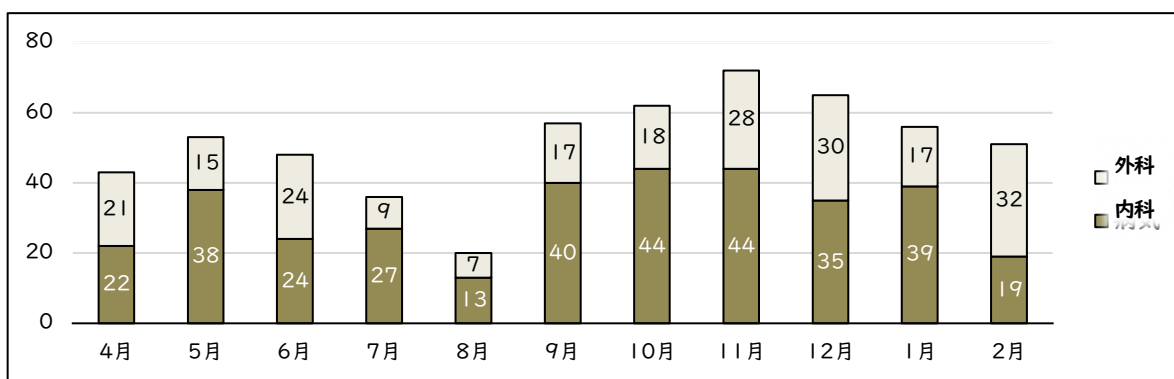
2. 欠席状況 (令和7年2月29日 現在)



忌引 14件
出席停止 228件
事故欠 236件
病欠 530件
合計 932件

3. 保健室来室状況 (令和7年2月29日 現在)

※内科には、健康相談や保健室登校も含んでいる。



外科 218件
内科 345件
合計 563件



4. 健康診断結果 学校保健の状況 (令和7年2月29日 現在)

検査項目	受診者数	異常なし (う歯なし)	処置完了	要治療・要検査	受診、治療済み
歯科検診(1学期)	104名	41名(約39%)	37名(約36%)	26名(約25%)	4名(約15%)
視力検査	102名	83名(約81%)		19名(約19%)	10名(約10%)
耳鼻咽喉科検査	97名	68名(約70%)		29名(約30%)	10名(約10%)

※耳鼻咽喉科未受診の児童(7名)は、内科検診で学校医に診ていただいた。